

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 農地と地域活動拠点
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 補助金 内閣府 国土交通省 厚生労働省 市区町村
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 建物状況 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔活動主体層〕 高齢者（定年退職者） 障がい者 子ども（高校生） ファミリー 多世代（ボランティア、オーナー）



写真1. 白米千枚田の様子

日本海に面して、棚田が海岸まで続く。かつて地元農家の高齢化・後継者不足により景勝地としての存続が危ぶまれたが、ボランティアや近隣地区的住民による組織がオーナー制度や各種イベントを行なうことで耕作維持・景観保全を行なう。日本の棚田百選、国指定文化財名勝の指定、2011年に日本で初めて世界農業遺産に認定された。

見学月日：2019年3月5日

見学者：山田、松原、小篠、濱崎、出口、古賀政好、
土田、佐藤栄治、古賀誉章、加藤、斎尾
葛原、梅津、目黒、五ノ井

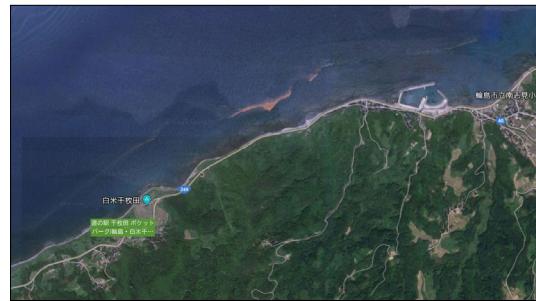


図1. 周辺状況 (googlemap より)

中心集落から約2.5kmの海沿い、北西向き斜面にある

■基本情報

所在地：石川県輪島市白米町99-5

枚数：1,004枚（畑を含む）

1枚当たりの平均面積：約18m²

耕作面積：約4ha（田1.8ha+畑2.2ha）

耕作率：約98%

標高範囲：4m～60m

平均勾配：1/4

法面の構造：土羽

開発起源：16世紀以前

水源：野田川

保全団体：（公財）白米千枚田景勝保存協議会、

千枚田景勝保存会、（株）千枚田

棚田オーナー：165組（H19～）

選定：棚田百選（H11）、国指定文化財名勝（H13）、

世界農業遺産（H23）

観光客数：毎年50万人以上

主な活動：棚田オーナー制度、耕作イベントの開催

棚田に隣接する道の駅での営業



写真2. 棚田オーナー、ボランティアによる田植え

（参考文献2）より引用

参加者は、稲作体験を通じて、生産過程やその米が食べられる喜びなどを経験できる。白米千枚田は、棚田オーナーと地元農家の方との交流の場にもなっている。



写真3. 1枚2m弱ほどの田んぼ

棚田は田の一枚一枚が地形に沿った形をし、面積も小さいため、農機による作業ができない。手作業で一つずつ稻苗を植え、稲刈りをしなければならず、高齢化や後継者不足の状況では、営農が難しい。



写真4. 輪島・白米千枚田あぜのきらめき

(参考文献2)より引用)

能登半島地震からの復興をPRするために開催していたが、好評を受けて農閑期を通じてのイベントに発展。冬季の夜間の観光客数はH28年度には10.3万人まで増加し、市内及び近隣地域の宿泊率向上にも寄与している。



写真5. イルミネーション用LED装置「ペットボタル」

地元企業の協力により、ペットボトル内の装置が昼間の太陽光エネルギーを充電、暗くなると自動で発光する。設置されているペットボタルは「ほたるびと」と呼ばれるボランティアが設置。

■活動概要

棚田の保全活動は、市、地元商工会、観光協会、棚田の管理者である地域住民組織のメンバーによって構成される「(公財)白米千枚田景勝保存協議会」が協力金、補助金をまとめ、棚田オーナー登録管理、年間計画を策定し、地域住民組織である「千枚田景勝保存会」、「(株)千枚田」が棚田オーナーによる耕作指導、田の管理を行なう。毎年の恒例イベントであるイルミネーションや結婚式等、道の駅の運営も地域住民組織が担う。(図2)

■保全活動の経緯

- S45 石川県と輪島市が景観維持の目的で地元農家組織(現千枚田景勝保存会)に耕作補助金を交付開始
・経済的支援だけでは後継者不足を解消するに至らず、耕作放棄は4割まで進行
- S57 修学旅行の一環で愛知県高校生450人が草刈りボランティア開始、他県高校の生徒にも派生
- H4 ボランティアによる耕作支援の開始
・連合石川による耕作ボランティア
「千枚田ファミリー」が組織される
→これをきっかけに市役所、農協、企業等がボランティアに参加
・600枚に減少した田が830枚に回復
・高校生ボランティアの存在で市民感情が盛り上がる
- H5 財団法人千枚田景勝保存基金の設立
・県、市、地元経済界の出資により基金を設立、運用益を耕作補助金に充てる体制を確立
※H25から現協議会に移行
・役員には地元農家やボランティア団体の代表等が就き、ここで決まった年間計画を基に作業
- H11 棚田百選に選定される
- H13 国の文化財名勝に選定される
- H15 保存管理計画の策定
・国の文化財指定を受け、基金を有効活用するため、有識者会議による検討を経て、管理計画を策定

- ・オーナー制検討開始
(オーナーの指導を行なう人材不足問題)
- H18 白米千枚田愛耕会の設立
- ・オーナーの田や休耕田の管理のために近隣地区の退職者により組織
→オーナー制度の通年管理体制が整う
地元農協・市役所OB等が立ち上がる
- H19 オーナー制度開始
- ・全国各地から賛同者が集結し57組が参加
 - ・類似の取組との差別化を図るために、作業にノルマを設けず、ライトな感覚で気軽に参加できる制度に
※「10人のプロより100人の素人」。
- H26 美しい農村再生支援事業交付金を活用し、
WEBによる情報発信を推進
- ・基金運用益、市の補助金、地元経済団体の協力金、オーナー制度の収益を棚田保全に活用
- H23 世界農業遺産認定
あぜのきらめき（農閑期イルミネーション）開始
- H25 道の駅の運営を近隣地区住民へ委託
同地区の女性がレストランや売店で野菜を販売
- H29 棚田オーナーとして165組が参加
(作成 東京工業大学 梅津綾 2019.03,
加筆・校正 東京電機大学 山田あすか 2020.11.15)



写真6. 千枚田結婚式（参考文献2）より引用）

毎年9月に一般募集により選ばれたカップルの結婚式が執り行われる。新郎新婦の貸衣装・着付け、会場設営は保存実行委員会が負担。能登特有の花嫁行列で黄金色の稻穂に囲まれた特設会場で行なわれる。はじめての共同作業は“稻刈り”。



写真7. 道の駅千枚田ポケットパーク

（引用：ほっと石川旅ねっと：<https://www.hotishikawa.jp/spot/1946>）

千枚田に隣接する、売店・トイレ等の建物。世界農業遺産認定により急増した観光客に対応できるようH25に拡大リニューアル。地元産品の直売所やレストランを新設し、地元住民による法人組織が運営。

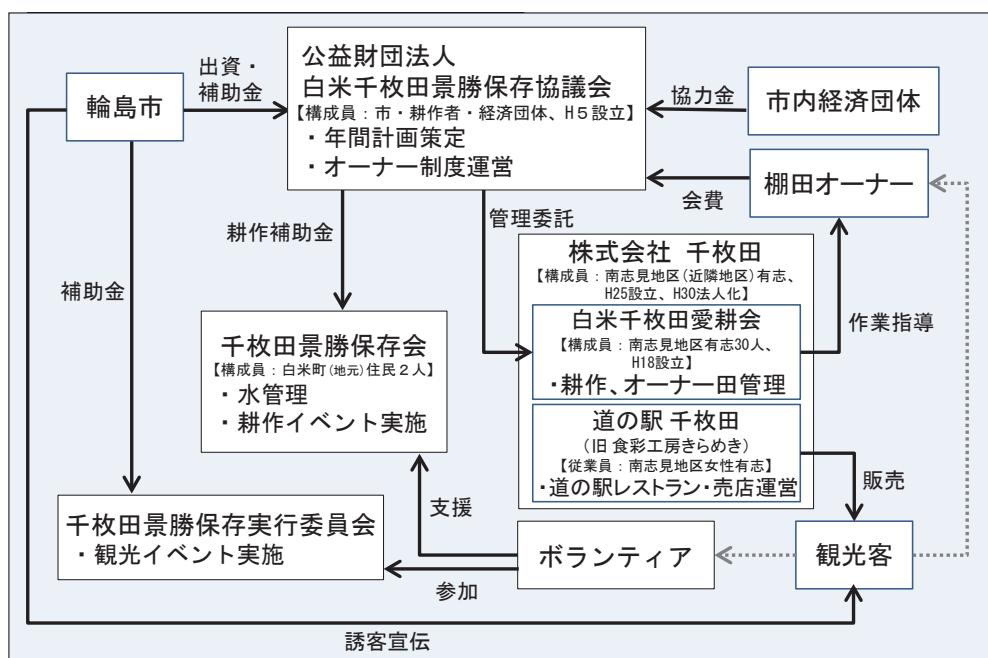


図2. 棚田保全のための組織関係図（参考文献1）pp.7より引用）

参考文献

1) 農林水産省：白米千枚田（石川県輪島市），棚田の優良事例集，

2018年7月20日

2) 白米千枚田ウェブサイト：<http://senmaida.wajima-kankou.jp/>，

2019年3月15日閲覧



写真8. 空から見た千枚田（現地の看板の看板を拡大）



写真9. 現地の看板

稻刈り後の冬期に行われている夜間ライトアップのイベントの紹介ポスター や、世界遺産に登録されていることやその経緯、四季折々の風景が紹介されている。